

1、研究主題

よろこびをもって学び合う子

～対話を通して、わかった！できた！を実感できる子をめざして～

『よろこびをもって学び合う子』とは、“考えるよろこび・深め合うよろこび・わかった！できた！よろこび”を実感するために、友だちや集団の中での対話を通して、自分の考えを深める子であると捉える。

2、主題設定の理由

本校では、学校教育目標「ぬくもりある学校での学び合う子の育成：すこやか」を受け、研究主題を『よろこびをもって学び合う子』、昨年度より副題を“対話を通して、わかった！できた！を実感できる子をめざして”と設定して、実践・研究を積み上げてきた。そして、2つの重点を掲げ取り組んできた。2つの重点とは、重点1：ねらいや目的を明確にしたペア・グループ活動、重点2：自己の変容を自覚できる評価活動である。

その結果、本校の子供たちは、“考えるよろこび”を実感できるようになってきている。目的ボード等を使ってグループ活動の目的を児童と共有することで、必要感を持たせることができた。振り返りでもよろこびポイントや振り返りの視点を与えて自己評価すること、1時間の振り返りだけでなく単元のゴールを意識させ、単元ごとについた力を振り返ることで自己の変容を感じることができた。ペア・グループでの対話は活発に行われるようになってきたが、対話後の個の深まりに迫るためにはまだ手立てが必要である。さらにねらい・課題を明確にし、自分の言葉でまとめる力が大切である。

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が求められている。そこで、今年度も友だちや集団の中での対話を通して、自分の考えを深める子、その変容や深まりを実感して学びを積み上げる子を育てていきたい。したがって、研究主題を引き続き『よろこびをもって学び合う子』、副題を「対話を通して、わかった！できた！を実感できる子をめざして」とした。「対話」とは、双方向の相互作用であり、自分と他者とのやりとりによって、物事に対する深い理解が生まれやすくなる。そして、一人では生み出せなかった知恵が出たり新たな考えが作り出せたりするよさがあると考え、「対話」を重視した実践を重ねていきたい。

中央教育審議会答申（平成28年12月）を基に本校では、「対話的な学び」を次のように捉える。

子供同士だけではなく、教員や地域の人との対話や、様々な資料から先人の考え方を手掛かりに考えることを通して、自分と他者の考えを比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たり、自分の考えをさらに確かなものにしたりするなど、自分の考えを広げたり深めたりできるようにすること。

「対話」によって自分の考えが相手に伝わったり、受け入れてもらえたりすると、うれしくなりさらに伝えたい、関わりたいという気持ちが高まるであろう。このように「対話的な学び」が行われることによって、「主体的な学び」に向かう姿が生まれやすくなり、「深い学び」への手立てとなると考える。

3、研究の重点

子供たちが、“考えるよろこび・深め合うよろこび・わかった！できた！よろこび”を実感するために、友だちや集団の中での対話を通して、自分の考えを深め、その変容や深まりを実感できるようにしたい。そのために、2つの重点を設定する。二重線は基本として取り組み、他の項目は、児童の発達段階や実態に応じて選択して取り組む。

重点1：ねらいに迫る対話を生むための工夫

重点2：わかった！できた！を実感させる手立て

重点1：ねらいに迫る対話を生むための工夫

子供たちが伝えたい！聞きたい！という意欲をもって考えを交流し、自分だけでは気がつかなかったことに気づいたり、友だちの考えを取り入れたりして、互いに考えを深め合えるような“対話を通じた思考の深まり”をめざしたい。そのために、45分の授業の中で、常に課題に対して思考を続け活性化できるように、授業を展開したい。子供たちからねらいに迫る対話が生まれ、深い学びを得られるように、以下の点を取り組むこととする。

- ・単元のねらい、本時のねらいを明確にし、児童自身が見通しを持って、単元のゴールに向かって主体的に学べるように単元構成や課題を工夫する。
- ・思考の深まりが目で見えてわかるように、全文シートやホワイトボードなどの“ツール”を使って対話をさせる。
- ・ペアやグループにおける対話、学級全体における対話など学習形態を工夫する。
- ・児童の思考を促す問い返しの発問をする。
(例)「〇〇ってどういう意味？」「なぜ～？」「〇〇さんはどうしてこう考えたと思う？」

重点2：わかった！できた！を実感させる手立て

子供たちは、友だちや集団の中での対話を通して、新たな見方や考え方に気づき、思いや考えを深めていく。子供たちが自分の変容を実感することは、わかった！できた！等のよろこびにつながり、さらには新たな学習意欲にもつながると考える。

集団思考により、「わかった！できた！」を実感するためには、授業の終末段階での活動が大切である。単元や1時間の授業を通して見たときの「学習する前の自分」と「学習を終えた後の自分」の変容を自覚する手立てとして、以下の点を取り組むこととする。

- ・キーワードや用語を確認し、自分でまとめを書かせる。
- ・「よろこびポイント」を活用して書く視点を明確にし、ねらいや目的に合った変容をふり返りとして書かせる。
- ・終末に、学習した内容を活用する場を設定する。
- ・学習したことを、ペアやグループで伝え合う。

4、研究の内容と全体構造図

研究主題

よろこびをもって学び合う子

学んだことを書けた！
できるようになった！
前より自分の考えが
深まった！

「分かった・できた」よろこび

重点2
「わかった」「できた」を実感させる手立て

「わかった」「できた」をまとめる

対話を通して

対話を通して

既習を生かしながら、課題を解決していく活動

みんなで考えを深める

「深め合う」よろこび

自分の考えを伝え合う

重点1

ねらいに迫るための対話

共通点はこれだ！
分類・整理すると
〇〇が見えてきた！

友達の考えを
聴いて分かった！
自分の考えとの
違いが分かった！

対話を通して

この既習を使って
考えてみよう！
自分の考えが
もてた！

なぜ？どうして？
はっきりさせたい！
できるように
なりたい！

「考える」よろこび

自分で考える

学習のめあてをつかむ

教材との出会い

泉中校区 小中一貫

学びの基本 「構え」 「聴く」 「話す」 「書く」

学びの土台

かかわり合いを大切にした学級づくり

5、研究の方法

(1) 対話を通して、わかった！できた！を実感できる子をめざして学び合う教師集団を目指す

- ① 研究授業をし、児童の姿から成果と課題を学び合う。
 - ・原則として、外部指導者を要請し、研究を深める。
- ② 分科研究授業を積極的に参観する
 - ・研究授業は計画的に行う。行事予定には、日時、教科、要請の3つを記す。
 - ・できるだけ参観し、付箋に感想と名前を書いて、付箋シートに貼る。
- ③ 学期ごとに1回ずつ、『ふらっと授業参観週間』を設ける

| 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
|---|---|--|
| ・低、中、高学年ごとに授業を見合う。学年始めに、児童理解や学級のルール作りなど学級集団作りについて知見を広げることを目指す。期間は2週間。 | ・空き時間に様々な教室の授業を参観する。様々な教師の手立てや教室環境や児童の姿を見つけ共有することを目指す。期間は2週間。 | ・空き時間に様々な教室の授業を参観する。様々な教師の手立てや児童の姿を見つけ共有することを目指す。期間は2週間。 |

- ・授業を気軽に参観し、よかった児童の姿、教師による手立て、重点についての有効性や改善点、学習履歴等の掲示、教室環境などについて、学んだことや感想を記録用紙に書く。
 - ・記録用紙に書いた感想を読み合うことで、お互いの授業のよい所を取り入れながら、授業力向上を目指すとともに、よりよい学びの姿に近づけるようにする。
- ④ 職員のニーズに応じた「ミニ研修会」を計画的に設ける
 - ・一人15分程度で、授業の実践報告、研修で学んだことの伝達、日々子ども達との関わり、学級でつかえるアイテムなどを紹介する。
 - ⑤ 板書を見合い、自己の実践に生かす
 - ・板書の写真を学年ごとに掲示し、互いに見合うことで、自己の実践に生かしていく。
 - ⑥ 授業改善セルフチェックシートを活用する
 - ・研究の重点について、教師一人一人が自分の授業を自己チェックすることで、対話を通して、わかった！できた！を実感できる子をめざしてについて、意識化を図る。チェックシートは毎週の週案とともに綴っていく。

授業改善セルフチェックシート

| 1 週目 | 授業で行う取組 | 授業以外で行う取組 |
|---|---|---|
| 月 日 () 教科 () | | 月 日 |
| 重点1 | 重点2 | |
| ・ねらいに迫る対話の工夫ができた。 (○ △) ツール 学習形態 問い返し発問 | ・自己の変容が実感できる手立て。 (○ △) ふりかえり 適用題 伝え合う | ・月1回、条件を守って書けるように指導した。(○ △) 活用した時間 授業 家庭学習 |
| ・授業後の自分の考えが授業前と比べて、つけ加わったり変わったりした。 () % | ・変容の実感がわかるふり返りを書くことができた。 () % | ・条件を守って時間内に書くことができた。 () % |

- ⑦ ノート指導を充実させる
- ・よいノートの条件を共有し、見本を示す。
 - ・職員室前の廊下に「よいノートコーナー」を設け、各クラス毎に掲示する。
 - ・ノート掲示は、月1回更新する。
 - ・「丁寧に書いてあるノート」「学習の流れが分かるノート」「思考の変容が見られるノート」などを掲示する。
 - ・学年掲示板にも「よいノートコーナー」を設ける。
- ⑧ 条件付作文に取り組ませる
- ・月に2回（下書き・清書）、朝学習を使い、全校一斉に作文に取り組ませる。
 - ・与えられた条件について考え、習った漢字を正しく使ったり、作文用紙を正しく使ったりすることができるようにする。
 - ・清書したものを掲示する。

| 1回目（下書き） | 2回目（清書） |
|-----------------|---------------|
| 自分の力で条件付作文に取り組む | 正しく条件付作文を書き直す |

- ・作文の題は全学年共通とし、条件は学年で共通とする。
- ・作文の字数は、低学年80字以内、中学年120字以内、高学年150字以内とする。（初めの段落だけ空けて、9割書くものとする）

【低学年】

【中学年】

【高学年】

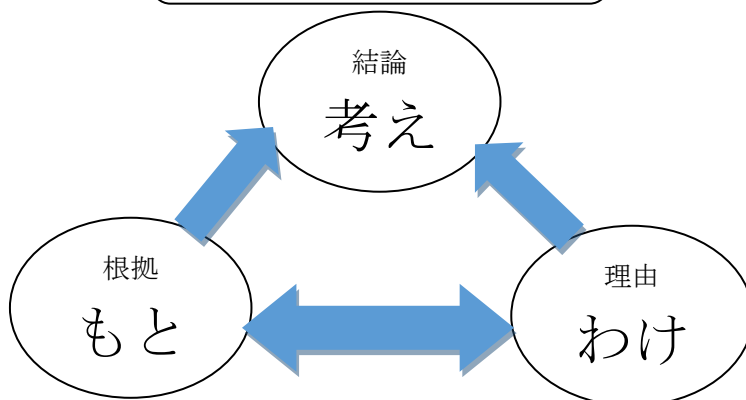
| | | | |
|--|--|--|---------------------------|
| <p>★よりかきり★ *ていねいな字で書けましたか？（ ） （ *じょうけんはまもれましたか？（ ）</p> | <p>★よりかきり★ *ていねいな字で書けましたか？（ ） *条件は守れましたか？（ ）</p> | <p>★よりかきり★ *ていねいな字で書けましたか？（ ） *条件は守れましたか？（ ）</p> | <p>中学生になったら 条件（ ）</p> |
|--|--|--|---------------------------|

(2) 授業づくりを支える土台として取り組む

- ① 学習規律「学びの基本」の定着
- ・泉中校区の「学びの基本 ～構え・聴く・話す・書く～」について、低・中・高・特支分科会ごとに発達段階に応じて具体化した言葉などを全教室に掲示し、共通理解、共通実践をする。

- ・児童の「学びの基本」に対する意識調査を3回（5月、7月、12月：5月は休業のため中止）実施し、児童自身が自分の成長や課題を感じることができるよう、1枚の紙に自己評価を記入する。
- ・三角ロジックを、話す・考える・書く場面など日常的に活用する。

私の考えは、～です。
私は、～だと考えました。

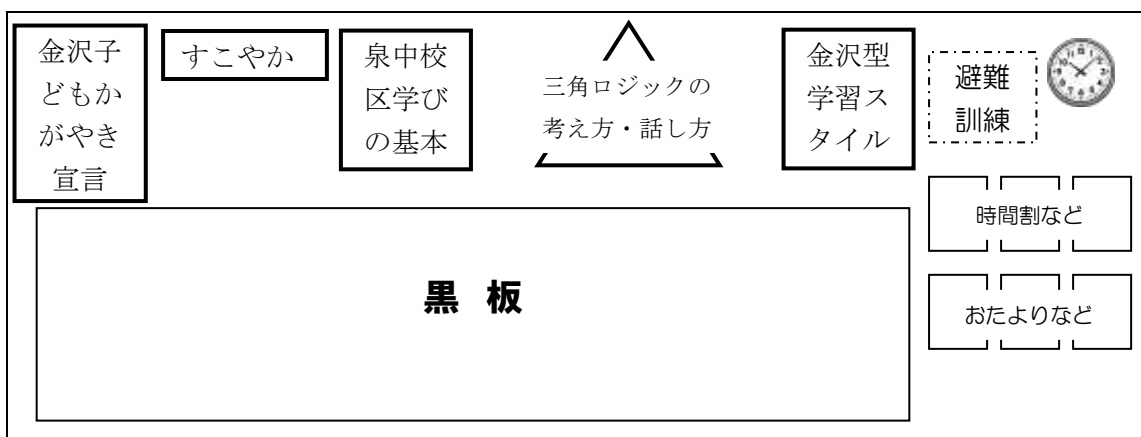


～を見てください。
～と書いてあります。

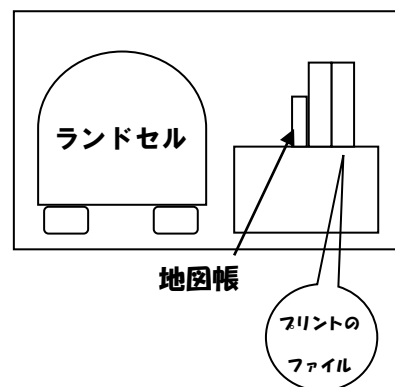
わけは、～からです。このことから、
～ということが言えるからです。

② 学習環境の充実

- ・学年・クラスの目標、学習に関するめあて、学習の足跡などを教室内に掲示することで、児童が常に学習内容を意識でき、場面に応じて振り返りができるようにする。学習環境を整えることで、より良い学年・クラス、学びをつくろうとする姿勢を育てる。
- ・年間を通して、学校目標（すこやか）、泉中校区「学びの基本」、三角ロジックの考え方・話し方、金沢子どもかがやき宣言を黒板の上に掲示し、共通した授業の心構えが意識できるように学校全体で取り組んでいく。



- ・算数プリント（水色）を全校で取り組んでいく。プリントをファイルに綴じ込んでいき、学習の積み重ねをファイルに残していく。ファイルは自分のロッカーのボックスの中に保管する。
- ・ボックスの中に、地図帳を入れておく（4年生以上）。



③ 朝学習の充実

ア、ねらい・・・毎日の朝学習に継続的に取り組むことにより、補充・反復指導を行い、「読み・書き・計算」等の基礎的な力や活用力をつける。

イ、時間 8：15～ 8：30の15分間

ウ、方法 各担任の指導の下で行う。

エ、内容

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--|-----|-----|-------|-----------------------|-----|
| | 各教科 | 各教科 | 英語 ST | 読書 条件付き作文 (月2回) | 各教科 |

④ 読書活動の充実

- 各学年の達成目標冊数を設定し、学校全体で取り組む。目標を達成した児童にはさらなる目標を設定し、意欲が継続するようにする。

| | 学年目標冊数 | 100パスポート |
|-----|--------|----------|
| 低学年 | 88冊 | 100冊 |
| 中学年 | 66冊 | |
| 高学年 | 46冊 | |

- 中村っ子読書ラリー（読書記録カード）に各学年の課題図書リストを位置づけ活用する。
- 本バッグを机の横に用意し、図書館から借りた本・辞書（3年生以上）を常時入れておく。いつでも読書ができる環境にし、読書習慣の定着を図る。
- 朝学習の課題が終わった時間や隙間時間に、できるだけ読書をするように声をかける。
- 司書との授業や図書館活用授業を積極的に行う。
(4月にオリエンテーション、図鑑（1，2年）、百科事典（3，4年）、年鑑（5，6年）の指導を単元に合わせて、司書とともに必ず行う)
- 朝学習で先生による読み聞かせ（年3回）…本については司書からリストが出る。
図書ボランティアによる読み聞かせ。(月1回) (コロナのため中止)
- 週末の家庭学習で読書をする。(図書館へ行く習慣づけ)
- 図書ボランティアによるふれあい読書(隔月昼休み)を行う。(コロナのため中止)

⑤ 家庭学習の充実

- 家庭との連携

日頃から保護者の方に連絡帳に目を通してサインをしてもらうことで、学習の状況や家庭学習での声かけ、励ましを通して子ども達が意欲的に取り組むことができるようにする。

- リーフレットの配布による保護者への啓発活動

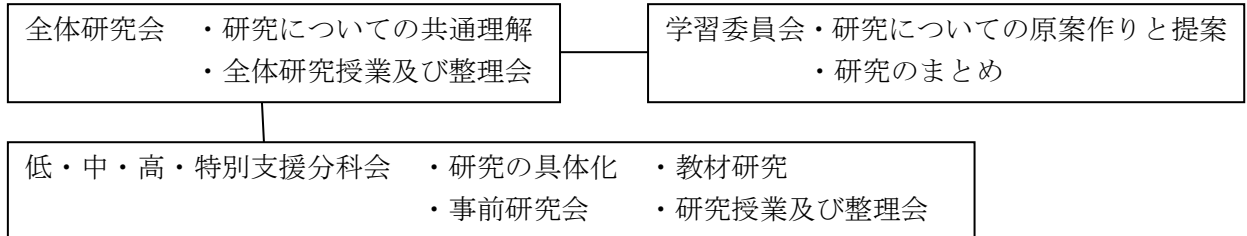
家庭学習は、学校での学習の定着を始めとして、予習や復習、さらには興味付けなどにも役立つ大切な学習である。リーフレットという形で作成した低学年・中学年・高学年向けの『家庭学習のすすめ』～進んで学ぶ中村っ子のために～を、奇数学年に配布し、機会を捉えて保護者にも呼びかけ、効果的に活用していく。

- 親子ふれあい学習シートの活用

上記のリーフレットの一層の活用により、家庭教育を充実させるとともに、親子のコミュニケーションを図ることをねらいとして、親子ふれあい学習週間では、1週間（5日間）

を区切り、項目ごとに、保護者に3段階に分けて記入してもらい、最後に保護者の一言感想と児童本人の振り返りを書いてもらう。

6、研究組織



7、研究授業計画

| 月 | 低学年分科会 | 中学年分科会 | 高学年分科会 | 特別支援分科会 | 備考 |
|----|---------------------------|---------------------------------------|---------------------------|--------------------------|--------|
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | ※橋本 (3-1 国) | 村本 (5-1 社) | | ※提案授業 |
| 10 | ○中野目 (2-1 国) | | ・清谷 (5-2 英) ○南 (6-1 理) | | |
| 11 | ・土肥 (1-1 道) 河南 (1-2 体) | ・吉山 (4-1 算) 中元 (4-2 体) 北 (3 年理) | 塩谷 (6-2 道) | 初見 (自・情 国) | |
| 12 | | 澤野 (3-2 算) | 廣田 (5 年算) | 倉野 (知的 国) ○津澤 (通級 自立) | |
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | 年間のまとめ |
| 3 | | | | | 来年度の方向 |

- ・※は提案授業 ○は全体研 ・は分科研
- ・全体研は、各分科会から1本とする

8、校内研修計画

低学年：村澤「教師として大切にしてきたこと 大切にしていきたいこと」

中学年：福田「図画工作科」

特別支援：徳成「児童の困り感と通級指導について

～ことばの教室では、いったいどんなことやっているの?～」

池田・本康「WISCってどういうもの」